香川の自然ガイドマップ 9
ため池の自然と生物多様性

創刊号

2025年
（令和7年）
3月26日

―― 発　行 ――
香　川　県
〒760-8570
高松市番町四丁目1番10号
Tel 087-831-1111（代表）

―― 企画・編集 ――
NPO法人
みんなでつくる
自然史博物館
香　川
〒766-0202
仲多度郡まんのう町中通838
ことなみ未来館3F
Tel 070-4073-0989

―― 賛　助 ――
公益財団法人
松平公益会
〒760-0030
高松市玉藻町4番10号

ご挨拶

香川の自然と生物多様性ガイドマップは、県内各地にある香川らしい自然の姿を紹介し、自然と生物多様性についての理解を深めていただくために作成しているものです。

香川県は1万箇所を超える大小さまざまなため池が点在する全国有数のため池県です。讃岐の文化ともいわれるため池の果たす役割は水資源の確保や水辺空間の創出など多岐にわたっており、多くの県民の皆様の生活に密接に関わり合って生育・生息し、生物多様性に富んだ環境となっています。

本冊子では、ため池のなりたちやため池に生育・生息する動植物との関係を紹介するため池新聞、自然観察に適したオオスメのため池ベスト5、ため池で見られる生き物をまとめたマップなどを掲載しています。

さあ、ガイドマップを携えて、ため池の自然や生き物を満喫してください。

参考文献一覧

【地図】❶長谷川修一・斉藤美（1989）讃岐平野の生いたち－第一瀬戸内累層群以降を中心に－アーバンクボタ28(52):52 ❷香川県農政水産部之土地改良課「データ」本県のため池」（https://www.pref.kagawa.lg.jp/tochika/about_tameike/detail.html）❸香川県一巻県県（1972）土地分類基本調査吉田区Kagawa A（1978）Geomorphic development of the Iaza and Sanuki Ranges and relating crustal movement.Sci Rep.Tohoku Univ.,Ser.(Geography)28:313-338 ❹「好新」世界第一長の活断層」中央構造線」3：0 0万年前に活動を再開」香川（をうどん県にした）（https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/ad5ca4497d7c0b0ac2ac9d2934e4a3d75b41e0d0）❺林志豊,須磨大夫（1996）阿蘇山地の隆起過程 鮮新～更新紀三豊盆地を指標にして 地質学雑誌104:4:247-267.

【植物】❶香川県環境保護・土地政策課自然保護室編（2000）オニバス保護管理マニュアル 香川県環境和環境・土地政策課自然保護室 84pp ❷和気俊郎・久米修（1990）香川県における水草分布調査の一事例 水草研会報40:2-8.

【植其関係】❶手之宇・川口敏（2009）ネートリアを題材内海の未来・手島・小早島（香川県丸亀市）あよりり沿線・豊島香川県小豆郡で確認・目撃 香川生物36(3):1-8 ❷島根県立博物館（編）（2014）四国の哺乳類 島根県立博物館,67pp ❸山口喜益・山口祐子（2007）小豆郡中のため池で確認されたコウモリ類について 神戸川環自然総資料28:24-29 ❹山田恵・藤田正芳（2007）香川県仲多度郡まんのう町満濃池周辺の4箇所における洞窟性コウモリ類の冬季の生態状況 香川生物34:37-44.

【鳥類】❶川端（2020）コウノトリ検討,p54. BIRDER 編集部編. BIRDER 2020年11月号. 文一総合出版.東京 ❷公益財団法人日本野鳥の会讃岐平野のため池群（香川県一円）（https://www.wbs.org/about-us/90th/future-site/kagawaken/）

【両生類・爬虫類】❶岩田明久（1982）香川県の爬虫類.香川生物10:29-33 ❷（1）岩田明久（1982）香川県の両生類.香川大学教育学部付属坂出中学校研究報告14:6-7.

【魚類】❶安芸晶彦（2003）香川県水の淡水魚類.香川生物30:13-24 ❷安芸晶彦（2007）香川県水の淡水魚類 II.香川生物34:117-129 ❸安芸晶彦（2023）香川県水の淡水魚類.しみんつくるFIELD NOTE①:7-12 ❹浜崎健一・大津和久・伊藤亮太・大津和久・白石芳子（2008）香川県における淡水魚類の分布 II.香川県環境保健研究センター所報7:65-72 ❺白井康子・伊藤英夫（2008）香川県における淡水魚類の分布②:主な魚類の出現状況.香川県環境保健研究センター所報7:73-80.

【貝類】❶矢野重文（2007）香川県産陸淡水産貝類目録（179種）さいた(15):18-23 ❷矢野重文（2024）採してみよう3種の淡水産貝類 しみつくるFIELD NOTE③:25-28.

【昆虫】❶香川県環境保護・土地政策課自然保護室編（2001）水生昆虫保護管理マニュアル.香川県環境和環境・土地政策課自然保護室.94pp.

【共通の文献】❶自然観察・土山ふみ・辻信男監・由田邦彦編著（2001）ため池の自然.生き物たちと風景－農山村ザイテック 231pp ❷香川県環境自然保護課（編）（1985）香川の自然ガイドブック空と緑の散歩道.香川県環境自然保護課.235pp ❸特定非営利活動法人みんなでつくる自然史博物館.香川県（編）（2021）香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物.香川県環境森林部みどり保全課.503pp ❹氏家由三編（1974）香川の動植物.高松市役所.203pp.

写真提供者／協力者

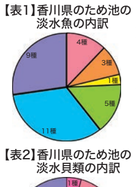
秋山敬典／川崎 亮美／久米 修／佐藤 明／藤田 浩之／末澤 喜代一／西木 良人／多田 裕／安永 修／安森 雪文／矢野 重文／和田 洋介／安芸 晶彦／長谷川 修一／金子 之史／大川 康弘／香川県森林・林業政策課／香川県土地改良課／国営讃岐まんのう公園／高速道土地改良区／まんの町土地改良区／丸亀市土地改良区土器町支部川池水利組合／四国池土地改良区／善通寺市前田才二八保存会／善通寺市生涯学習課

令和7年3月26日 初版
香川県
Kagawa Prefectural Government

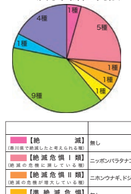
ため池の魚類・貝類

ため池に生息する淡水魚類と淡水産貝類のうち約半数の在来種が絶滅危惧種に選定されており、ため池の環境保全が求められている。

【表1】香川県のため池の淡水魚の内訳



【表2】香川県のため池の淡水貝類の内訳



	淡水魚	淡水貝類
【絶滅】（絶滅と思われたと考えられる種）	無し	カワネガイ
【絶滅危惧Ⅰ類】（絶滅の危機が差し迫っている種）	ニッポンバラタナゴ、カワバタモロコ、スイムシ、オヤニラミ	マメタニ、ミズコハクガイ、マツカサガイ、カタハガイ、フネドガイ
【絶滅危惧Ⅱ類】（絶滅の危機が迫っている種）	ニホンウナギ、ドジョウ、ミナミメダカ	マルタニシ
【準絶滅危惧】（現状では絶滅の危機は低いが、将来的に危惧される要因を有する種）	無し	ドブシジミ
【情報不足】（絶滅危惧種であるかどうか情報が不足している種）	シマヒレヨシノボリ	モノアラガイ
【その他の在来種】（絶滅に関与しているとは考えられない種）	ウキゴリ、カワムツ、ギンブナ、ナマズ、モツゴ	オオタニシ、ヒメタニシ、ヒメモノアラガイ、ハブタエトヒラキ、ヒラキカワモドキ、カワコザラ、タガイ、メマリオ、マシジミ
【国内外来種】（国内の他の地域から持ち込まれた種）	コイ、コウライニゴイ、ゲンゴロウブナ、ニゴロブナ、オイカワ、タモロコ、コウライモロコ、トウヨシボリ、ブルーギル、ワカサギ、アユ、ハス	マルドブガイ（絶滅危惧Ⅱ類）
【国内外来種】（海外から持ち込まれた種）	アブラボテ、ヤリタナゴ、オオタナゴ、スゴモロコ、ヨシノボリ、ブルーバックサンフィッシュ、ブルーギル、ソウギョ、ハクレン、アオウオ、タイリクバラタナゴ、カムルチー、タイワンドジョウ	スクリジンコガイ、ハブタエモノアラガイ、タイワンモノアラガイ、サカマキガイ

淡水魚類・淡水産貝類の現状

香川県で記録のある54種の純淡水魚（生を淡水域で暮らす魚のうち、29種、約54％）が、ため池で確認されている。そのほかニホンウナギなどの通し回遊魚（川と海の間を往き来する魚）4種も河川を通してため池に適応して生活している。また、在来種より外来種（国内外来種＋国外外来種）が多く確認されていることも現在のため池に特徴的である。ちなみに、通し回遊魚の中にはため池に適応して生活する淡水域で暮らすようになった種もいる（裏面を参照）。

淡水産貝類は、香川県全体で40種、そのうち、2種（約5％）が、ため池から確認されている。淡水魚類も淡水産貝類も在来種のうちの半分近くの種に、絶滅の危険性がある事が分かっている。

取りまく課題

ため池の希少な淡水魚類及び淡水産貝類が減少している主な原因として、①外来種（オオクチバス（ブラックバス）、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）など）による食害や競合、②ため池の管理放棄による生息環境の変化・水質悪化・泥の堆積など、③ため池改修や開発（護岸化など）に伴う生息地・繁殖場の消失、④農薬や生活排水による水質汚濁が挙げられる。それぞれの地域が主体となり、ため池の生物が保たれることが望ましい。

カワバタモロコ
■絶滅危惧Ⅰ類
分布：日本固有種（静岡県東声川水系以西の本州太平洋側、四国の瀬戸内側、九州北西部）全長：約4cm

カワネジガイ
■絶滅
分布：日本（本州、四国、九州）
殻長：約10mm 殻幅：約2mm

ミズコハクガイ
■絶滅危惧Ⅰ類
分布：日本（本州、四国、九州）
殻長：約1mm 殻幅：約4mm

ため池の鳥類

ため池は、様々な鳥類が利用する環境の一つで、餌場、水飲み場、ねぐら、繁殖地などになっている。

ため池を餌場とする鳥類

鳥類は他の生き物とは異なり、移動する能力が高いため、ため池を目に選べ、必要なときに利用する。例えば、水草、魚類、貝類など、ため池に生育・生息する多くの生き物を食べに飛来するが、どんな鳥類が、いつ、どんな物を食べに、どこに飛来するのだろうか。そこで、香川県の主な鳥類によるため池の利用状況を、覧にしてみた（表1を参照）。

ため池の貯水時には水面で活動する種や、水中に潜って水草や魚類などを食べる種がいる。ため池における植物食の中心は冬鳥のカモ類である。一方、池干し時は水位が低下して大きな水たまりのようになり、そこに閉じ込められた魚類をはじめとする水生生物が高密度でひしめくようになり、泳げない水辺の鳥類にとって最高の餌場となるため、秋から冬場にかけた池干しは、貯水時とは異なる鳥類の良いエサ場としての機能を持ち、生物多様性の保全にも役立っている。また、近年香川県に多く飛来するようになったコウノトリの胃袋の中からザリガニやウシガエルが見つかっており、外来種の防除に一助にもなっていることが分かっている。このように鳥類の大切な生活場所となっているため池であるが、近年では、水上太陽光発電の運用が進み、鳥類の生活への影響が心配されている。

【表1】ため池の水辺の鳥類の食性、利用時期一覧

	貯水時	池干し時	その他
動物食	■ミサゴ、カワセミ、カワウ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キンクロハジロ、ミコアイサ	■コウノトリ、サギ類、イカルチドリ、シロチドリ、イソシギ、ゼグロセキレイ、ハクセキレイ ■セイタカシギ ■ベニサギ、クサシギ、タゲリ	堤防のアシハラを興味として利用
雑食	■オオバン、バン、カルガモ ■オナガガモ、ハシビロガモ、マガモ	■タヒバリ	■オオヨシキリ ■ツリスガラ
植物食	■オカヨシガモ、オジロリ、コガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、ヨシガモ		

■ 留鳥：香川県で一年中見られる鳥
■ 夏鳥：春に香川県より南の地域から渡って きて繁殖し、秋には南の地域に渡って冬を過ごす鳥
■ 旅鳥：香川県より北で繁殖し、香川県より南でも冬を越す鳥（春の北上と秋の南下の渡りの時期に見られる）
■ 冬鳥：秋に香川県より北の地域から渡って きてその冬を越し、春には北の地域に渡って繁殖する鳥

■ミサゴ
分布：極地を除く、ほぼ世界中
全長：約60cm
魚を食べるタカ。水上でホバリングをして、急降下で脚から水に飛び込んで魚をとらえる。県内のため池でも良く観察できる。

■オオコシギ
分布：東アジア
全長：約18cm
河口、川岸、ため池などの広いアシ原に渡来する。オスは枯れ枝やヨシの先などに止まり、オレンジ色の口の中がのぞけるほど大きくロを開けて特徴的な声でさえずる。

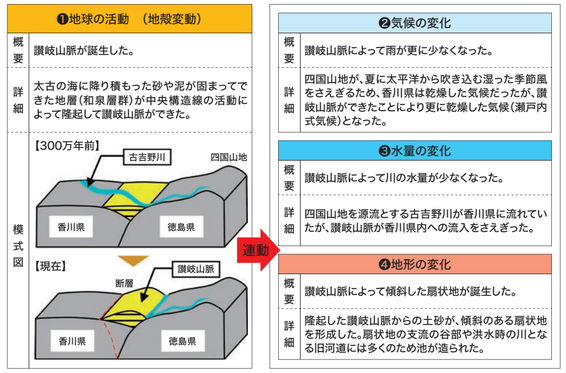
■セイタカシギ
分布：東アジア
全長：約37cm
赤く長い脚を持ったスマートで美しいシギ。ため池や水田等に稀に飛来する。水辺で昆虫、エビやカニ等の甲殻類、小魚等を食べる。

■ミコアイサ
分布：ユーラシア大陸～日本
全長：約42cm
オスはほぼ全体が白色で、冠羽がある目の周囲が黒くなっているのでパンダガモともよばれる。主に魚類を捕食する。冬期に渡来する。

ため池のなりたち

香川県のため池数は12,231（全国比8.1％、令和6年現在）で、県の総面積に対するため池の密度では他の都道府県を圧倒し全国一となっている。なぜ日本一狭い香川県にこれほど多くのため池が造られたのか、また、その結果、どのような水環境が誕生し、その環境に適応してどのような生物が住みついているか探求してみよう。

【図1】多くのため池の誕生に結びつく香川の歴史



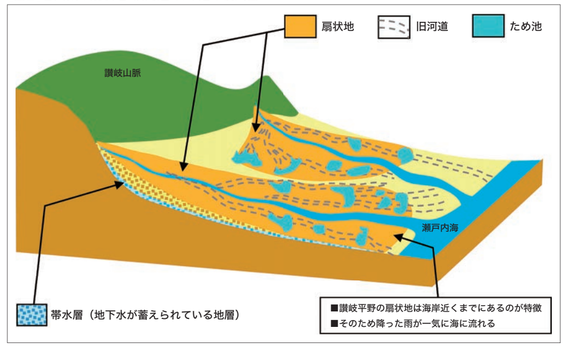
香川県にため池が多い、4つの背景

香川県のため池の密度が全国一となった大きな背景は4つある。具体的には、地球の活動（地殻変動）によって山脈が形成され、これに連動した気候の変化、河川の流路の変化による水量の変化、河川による浸食作用や堆積作用による地形の変化が、現在のため池王国の下地となった（図1を参照）。つまり、なにげなく普通に見ているため池のある風景は、先人たちの努力が大きく関わって形成されたのだ。

ため池が果たす様々な役割

多くのため池が造られた扇状地は、山地を流れる河川が運搬した砂礫が、谷口を頂点として扇状に堆積した地形だ（図2を参照）。つまり、降った雨が洪水で一気に流れ去り、洪水のリスクと水持ちの悪い渇水のリスクが共存する過酷な環境となっている。ため池を川の本流に築造すると決壊する危険性が高いため、図1で記したように、ため池の多くは扇状地の支流の谷部や洪水時に川となる旧河道に造られた。そのため、ため池は川の氾濫時には水を引き込んで災害を軽減したり、ため池は水を米作りに活用されるなど、香川県民の生活を守ってきた大切な存在と言える。そして、ため池は様々な動植物の生育・生息地となっており、中にはため池にしがみつくようにして生き残っている絶滅危惧種が存在するなど、香川県の生物多様性を守る上でも非常に大切な存在になっているのだ。

【図2】香川県の扇状地・旧河道・ため池の模式図



ため池の昆虫

ため池には多様な水生昆虫が生息しており、絶滅危惧種も多く含まれている。さらにその中にはため池の環境保全だけでは守ることができない種がいる。

ため池に求められる環境とは

ため池に生息する水生昆虫は、陸上で進化・誕生した昆虫の部が水面を含む水中での生活に適応・進化した生き物なので、生活史の全部を完全に水中で過ごす種は少ない。つまり、多くの水生昆虫が、卵、幼虫、蛹、成虫のいずれかの時代を陸上で過ごすため、水中と陸上の両方の生息環境が揃っていなければ生きていないのだ。

では、具体的にどのような陸上環境が、ため池とセットで必要なのか、香川県の絶滅危惧種2種を例に示した図1・図2を参照）。これら2種を比較して分かるように、ため池に求められる環境は種によって異なる。多様な水生昆虫を保全するためには多様で充実したため池環境が必要であり、我々人間も生き物に寄り添った環境の整備に努める必要がある。

【図1】コバネアオイトトンボに必要な環境

【図2】オオミズスマシに必要な環境

ため池の植物

ため池は様々な生き物の生育・生息環境となっているが、その中での中心的な役割として水草の存在は欠かせない（ため池の生態系を参照）。そのような水草であるが、ため池を囲む周辺環境により、構成する種類はため池ごとに十人十色である。

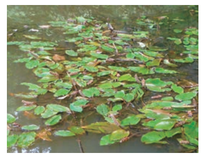
【図1】ため池の水深と、生育する水草の関係

立地環境		平野部	丘陵部	山地部
池の形態		皿池が多い（断面）		谷池が多い（断面）
水質		豊栄養型	中栄養型	貧栄養型
		・栄養塩：多い ・生物生産量：多い ・透明度：低い	豊栄養型と貧栄養型の中間	・栄養塩：少ない ・生物生産量：少ない ・透明度：高い
水草（例）	抽水植物	■ガマ・ヒメガマ ■ハス	■コウホネ ■クログワイ	■ヤマトミクリ ■ミズミイ
	浮葉植物	■オニバス ■アサザ	■ヒツジグサ ■ジュンサイ	■フトヒルムシロ ■オヒルムシロ
	沈水植物	■クロモ ■ホザキノフサモ	■センニンモ ■ミズオオバコ	■スブタ ■ホッスモ
	備考	ヨシ（抽水植物）等のように、平野部・丘陵部・山地部の広範囲で生育する種も多く存在します。		

水質・水深で変化する 水草の顔ぶれ

水草にとって最も重要な生育環境の（つは水質（栄養塩の量）だ。ため池の水質は立地場所によって大きく変わり、生育する水草も変化する（図1を参照）。丘陵部や山地部に多い、谷池は、谷川の上流から流入する水をせき止めて作られるため、生活排水の混入が少なく貧栄養の傾向にある。平野部に多い、皿池は旧河道（ため池のなりたちを参照）などの周囲を堤で囲んで作られ、人間の生活範囲に近い場所に立地することが多い。そのため、生活排水や肥料が混入しやすく、水質が富栄養化する傾向にある。富栄養化した池ではアオコ（藍藻類の仲間）が大量発生して水草や水中の酸素が減り、水生生物が死滅してしまう。

水草は水深によっても生育する種が変化する。浅い場所には抽水植物、中程度光が底に届く範囲に沈水植物、深い場所には浮葉植物が生育している（図2を参照）。これら以外に、水深に関係なく生育する水草もいる。それは、浮遊植物で、根が水中にただよい、植物体が水面に浮かんで生活する。

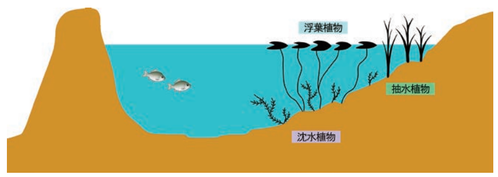


フトヒルムシロ
■浮葉植物
■山地部のため池に生育する。富栄養化に弱く、水質が悪化すると次第に消失する。

ホザキノフサモ
■沈水植物
■平野部のため池や河川用水路、汽水域に多く生育する。

コウホネ
■抽水植物
■丘陵部のため池や用水路などで生育する。

【図2】ため池の水深と、生育する水草の関係



池干しと水草の意外な良好関係

ため池では防災機能を維持するために、定期的な池干し（池の水を抜いて堤体のメンテナンスを行う）をすることが求められている。一見すると、池干しは生態系の保全と対をなす行為のように思える。しかし、むしろこの池干しによって水質が改善し生物多様性が推進されることもある。池干しの際に、生物調査や外来生物の駆除が行われることもあるし、ガガブタやサザなどの種子は、水位の変動で度空気に触れることにより発芽が誘引されるため、池干しは、これら一部の水草の次世代の育成につながるからだ。また、これら水草が成長する際には栄養塩を消費し水質浄化を担っている点も重要なポイントだ。

ため池の生態系

ため池には、様々な生き物が生育・生息しており、それぞれが複雑な関係を持って暮らしている。そして、それらに人間の定期的な手入れが加わることで、「生物多様性の宝庫」とも呼ばれるため池の生態系が実現するのである。

ヒシから見る生物多様性

生き物の世界は、複雑に絡み合ってつながりながら、生態系のバランスを保っている。そこでため池における代表的な水草であるヒシを中心とした生態系を紹介する（図1を参照）。

ヒシは、茎が細く大きな葉柄の一部が浮き袋になって沈みにくいため、鳥類や昆虫類などの足場となっている。例えば、ヒメミズカキリは減少している希少な昆虫だが、ヒシが生育している環境には多く生息している。なぜなら、ヒメミズカキリは、安定したヒシを足場として水中に身を潜め、近くを通りかかったアメンボを捕食するからだ。天敵を避けるため池の水上に営巣するカイツブリも、ヒシを巣の足場として、頻繁に利用する。

また、ヒシは様々な水生昆虫の産卵場所となっている。例えばオオミズスマシは、ヒシなどの浮葉植物の葉裏に卵を産み付ける。水面近くの水草の茎に卵を埋め込むゲンゴロウ類やイトトンボ類などもヒシを利用する。水草が茂っている水面に卵を産み落とすチョウトンボなどにとって、ため池のヒシの群落は理想的な環境となっているからだ。そして卵からかえった幼虫は、ヒシの茂みを隠れ家として成長していく。

さらにヒシは生き物の食べ物にもなっている。葉柄の浮袋それぞれを専門に食べるヒシチビゾウムシに葉はジンサンバムシに実はヒシクイに食べられ、それぞれの命を育んでいる。幼虫は根を食べ成虫になると葉を食べるようになるイネネクイハムシなども存在する。

【図1】ため池の代表的な水草（ヒシ）と、他の生き物のとの関係

自然観察のマナー

- **自然を知るには、まず五感から!**
  動植物をよく知るには、顔を近づけて見るだけではなく、手で触れ、においをかいでみるなど、五感を使って観察してみましょう。
- **自然の中で耳を澄ませてみよう!**
  野鳥の声や虫の音、風の音や川のせせらぎなど、自然のすばらしい音に耳を澄ませましょう。
  音楽を流したり、ラジオを聴いたりしながら歩かないようにしましょう。
- **山火事に注意しましょう!**
  雨の少ない瀬戸内の森は一年中乾燥しています。森の中での火気は厳禁です。タバコは決められた喫煙場所以外では吸わないようにしましょう。

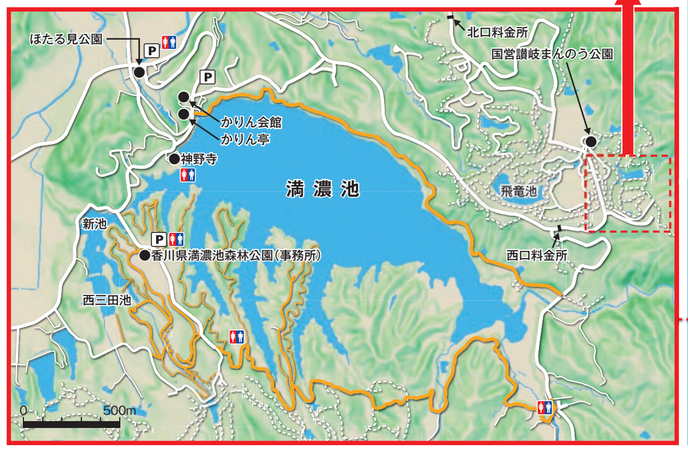
⚠これには注意しましょう⚠

- **水難事故防止の徹底を!**
  ため池の水際はすべりやすく大変危険です。
  不用意に近づかないでください。転落したら這い上がれず、溺ぼれてしまいます。
- **危険な生き物には近づかないように!**
  スズメバチやマムシなど危険な生き物には注意しましょう。見かけたら驚かさないように、ゆっくりとその場を離れましょう。

- **イノシシに出合ったら! 襲われないための3原則**
  一つ　何もせず放っておく（無視をする）と、ほとんどの場合、向こうから逃げていきます。
  二つ　ゆっくりと後ろに下がって、静かにその場を立ち去るか、物陰に隠れましょう。
  三つ　決して威嚇したり、追い払ったりしないでください。絶対にエサは与えないようにしましょう。イノシシが人を襲うようになります。

- **自然の中に入るときの七つ道具!**
  長そで・長ズボン、足元がしっかりした靴、帽子、軍手、水筒、雨具、健康保険証

- **疲れたら休もう、無理は禁物!**

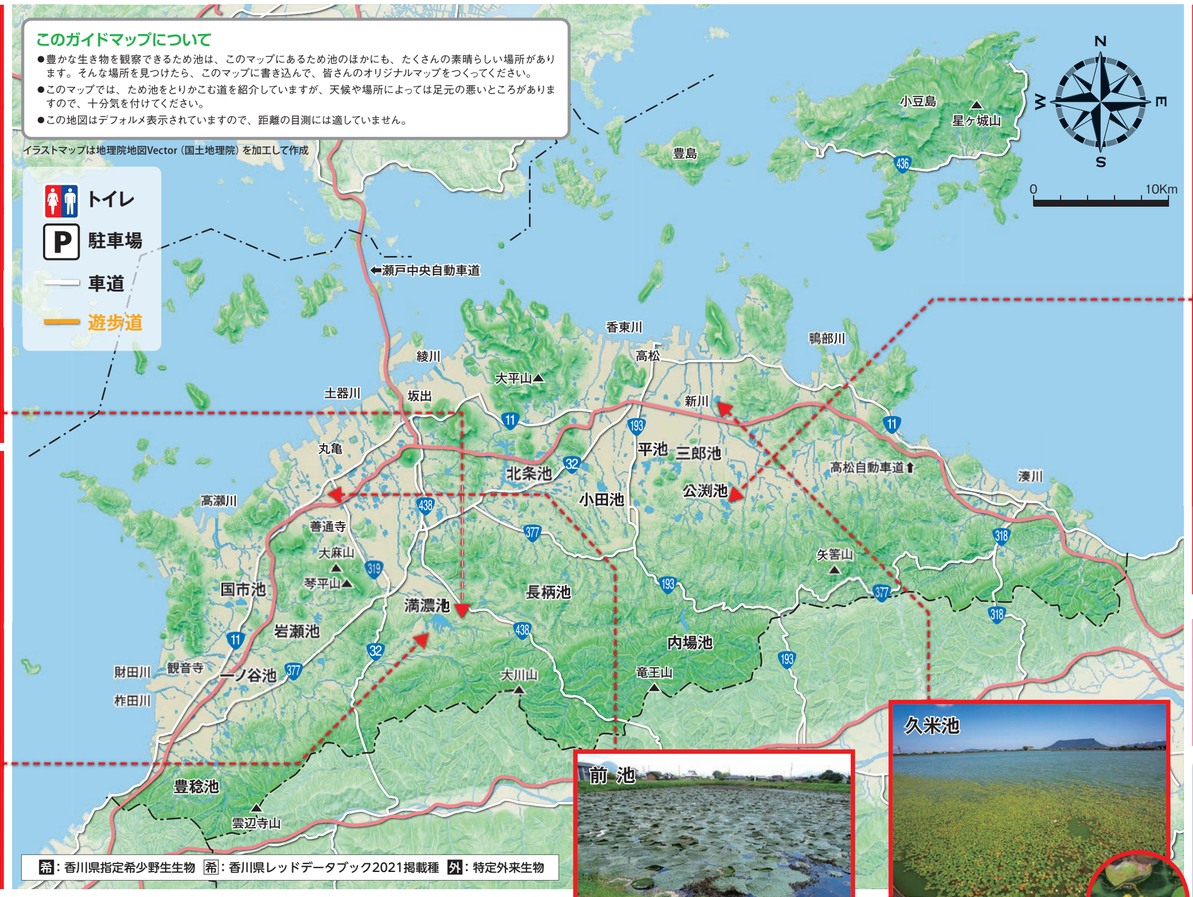


このガイドマップについて

- 豊かな生き物を観察できるため池は、このマップにあるため池のほかにも、たくさんの素晴らしい場所があります。そんな場所を見つけたら、このマップに書き込んで、皆さんのオリジナルマップをつくってください。
- このマップでは、ため池をとりかこむ道を紹介していますが、天候や場所によっては足元の悪いところがありますので、十分気を付けてください。
- この地図はデフォルメ表示されていますので、距離の目測には適していません。

イラストマップは地理院地図Vector（国土地理院）を加工して作成

トイレ　駐車場　車道　遊歩道



希：香川県指定希少野生生物　希：香川県レッドデータブック2021掲載種　外：特定外来生物

自然観察に適した、香川県のオススメため池　ベスト5

ため池	所在地	水草	鳥類	トンボ	備考
逆様池	仲多度郡まんのう町炭所西	◎	×	◎	国営讃岐まんのう公園内
満濃池	仲多度郡まんのう町神野	×	◎	◎	日本最大のため池
公渕池	高松市東植田町	◎	◎	◎	公渕森林公園内
前池	善通寺市稲木町	オニバス生育地前池保護区：善通寺市天然記念物にも指定			
久米池	高松市新田町	アサザ生育地久米池保護区：県内唯一のアサザ自生地			

ため池の哺乳類

コウモリ類にとってため池の上空は飛ぶ昆虫を捕食する夜の狩り場であり、導水路のトンネルはその休憩所になる。特定外来生物ヌートリアはため池の堤体に巣穴を掘る。すでに香川県の島しょ部には海を渡って侵入しており、農作物を食害している。

冬 春 秋 夏 **キクガシラコウモリ**
頭胴長55～82㎜、前腕長52～65㎜。複雑な鼻葉の形が特徴。香川県ではため池導水路のトンネル、洞窟や人工洞穴など、また家屋の納屋や天井でも生息。甲虫や蛾、ハエなどを食す。

冬 春 秋 夏 外 **ヌートリア**
頭胴長50～70㎝、尾長35～50cm。軍用の毛皮獣として養殖され、戦後に野生化。香川県では小豆島や豊島、直島、本島、広島、手島、小手島に侵入、近年は本土側にも確認記録がある。後足には水かきがあり、水辺の植物、貝などを食す。

ため池の甲殻類

テナガエビ類やスジエビ、ヌマエビ類などの在来の淡水エビが生息する。外来種のアメリカザリガニも生息し、大きな問題となっている。

冬 春 秋 夏 外 **アメリカザリガニ**
体長8～12㎝。ウシガエルの餌として移入された。香川県の平野部、島嶼部に広く生息し、小魚や水生昆虫、甲殻類、水草など何でも食べるため、生態系・在来種への影響が大きい。

冬 春 秋 夏 **ミナミヌマエビ**
体長20～30㎜。香川県ではため池や河川のよどみに生息しており、水草が多い場所を好む。雑食性で、藻類や生き物の死骸など、有機物を何でも食べる。

ため池の淡水産貝類

23種の淡水産貝類の記録があり、うち1種は香川県では絶滅したと考えられている。ため池に生息する在来種のうちの半分近くの種に、絶滅の危険性がある。

冬 春 秋 夏 希 **マルタニシ**
殻長約6㎝、殻幅約5㎝。香川県では中讃地域を中心に観音寺市、三豊市、高松市、小豆島のため池やその周辺の用水路に生息している。用水路の改修やスクミリンゴガイとの競合の影響で減少している。

冬 春 秋 夏 **スクミリンゴガイ**
殻長約5㎝、殻幅約4㎝。食用として移入された。養殖されたものが破棄され、香川県の水田・ため池を中心に広く拡散・定着している。稲の苗を食べるため、農家に深刻な被害が出ている。

冬 春 秋 夏 **ドブガイ**（左：ヌマガイ 右：タガイ）
殻長10㎝以上に達する。香川県ではため池に広く生息し、かつては人間の食料となっていた。遺伝子などの分類研究が進み、大型で殻高が高く丸型のヌマガイと、小型で殻長が長く細長型のタガイとに分離された。

寄生　産卵

冬 春 秋 夏 希 **シマヒレヨシノボリ**
全長約6㎝。通し回遊魚だが、香川県ではため池で一生をすごす陸封型が存在する。本種はドブガイにとって必要な宿主（幼生がヒレに寄生）であり、更にドブガイはニッポンバラタナゴの産卵床となるなど、命がつながっている。

冬 春 秋 夏 希 **ニッポンバラタナゴ**
全長約5㎝。香川県では高松地域と東讃地域の里山にあるいくつかのため池とその下流河川に生息する。メスは、ドブガイなど生きた二枚貝のえらの中に卵を産む。

ため池の魚類

29種の純淡水魚、および4種の通し回遊魚（川と海の間を往き来する魚）の計33種の淡水魚が確認されている。通し回遊魚の中にはため池に適応・小型化し、海の代用として一生をため池で暮らすようになった種もいる。

冬 春 秋 夏 希 **オヤニラミ**
全長約10㎝。香川県では中讃地域にある河川の中・上流域とため池のヨシが生える岸の深みに好んで生息する希少種。昆虫やエビ、小魚を食べる。

冬 春 秋 夏 **ウキゴリ**
全長約10㎝。通し回遊魚だが、香川県ではため池で一生をすごす陸封型も稀に存在する。甲殻類や水生昆虫などが口に入るものなら何でも食べる。

ため池の植物

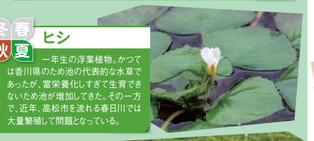
様々な水草が確認されているが、ため池の立地条件・水質や水深の違いによって、生育する種が大きく変化する（表面のため池の植物を参照）。抽水植物や沈水植物、浮葉植物、浮遊植物が豊富に揃って見られる理想のため池は山間部に多い（下の写真を参照）。

冬 春 秋 夏 希 **イトモ**
多年生の沈水植物。香川県では平野部から山地部の半日陰のため池や河川、用水路に生育する。ため池や河川の改修により生育地が消滅し、ヒルムシロ属の他種との交雑で雑種化が起こっている。

冬 春 秋 夏 希 **ガガブタ**
多年生の浮葉植物。やや富栄養化した平野部から丘陵部にかけてのため池に生育する。香川県では、かつては普通に見られたが、ため池の改変や水質の悪化によって少なくなった。

冬 春 秋 夏 希 **オニバス**
一年生の大型浮葉植物。香川県では過去35年間に70か所以上のため池で生育したが、最近は10か所程度でしか生育していない。前池は県内で最も安定した自生地となっている。

冬 春 秋 夏 希 **アサザ**
多年生の浮葉植物。香川県では久米池は県内で唯一の自生地となっている。以前は他のため池や湿田にも生育していたが、近年のため池の改変や水質悪化によって消滅した。



冬 春 秋 夏 **ヒシ**
一年生の浮葉植物。かつては香川県のため池の代表的な水草であったが、富栄養化しすぎて生育できないため池が増加してきた。その一方で、近年、高松市を流れる春日川では大量繁殖して問題となっている。

冬 春 秋 夏 希 **ヤナギスブタ**
一年生の沈水植物。山地から丘陵部の透明度の高い貧栄養の水質のため池に生育する。香川県の生育地は限定され、生育環境の変容や水質の悪化で減少している。

冬 春 秋 夏 希 **ミズオオバコ**
一年生の沈水植物。香川県では平野部から丘陵部のため池等に広く生育する。ため池や用水路の改変、管理放棄、水質汚濁等によって、香川県では近年減少しつつある。

ため池の両生類・爬虫類

山際のきれいな水質のため池では、最近では生息数を減らしつつある貴重な両生類・爬虫類を観察できる可能性が高い。一方、平野のよどんだ水質のため池は、環境変化に強い両生類・爬虫類、特に外来種の生息割合が高い。

冬 春 秋 夏 希 **ニホンスッポン**
甲長20～30㎝。香川県では河川中流域や公園内の池に生息する。河川改修等により、生息環境が大きく変化している。食用として利用されるため、捕獲の危険性にさらされている。

冬 春 秋 夏 外 **ウシガエル**
体長11～18㎝。食用として移入された。養殖場を逃げだした個体や放逐された個体が定着し、香川県でもため池にごく普通に生息している。口に入る生き物をなんでも食べ、共食いもする。

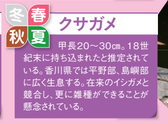
捕食

冬 春 秋 夏 外 **ウシガエル**（幼生）
最大で体長15㎝ほどに達する。在来種のニホンヒキガエルの卵のうを食べてしまうため問題視されている。幼生でかえるを越すため、池干しをすれば繁殖を阻止できる。

冬 春 秋 夏 希 **ニホンヒキガエル**（卵嚢）
3月ごろに水温が約10度になると、水のきれいなため池や沼などで産卵する。雌が一度に産む卵は約1万個で、卵のうの長いものは30㎝にも及ぶ。

冬 春 秋 夏 希 **ニホンヒキガエル**
体長は7～15㎝。香川県では、島しょ部や平野部の山麓、山間部に分布し、繁殖期以外は水場を離れ陸上で生活する。昆虫類やミミズ等を捕食する。

冬 春 秋 夏 希 **アカハライモリ**
全長8～14㎝。香川県では平野部から山地部に広く分布していた。工事や管理放棄の影響などで、現在は綿麗な水が流入する山地部や山地部寄りの平野部のため池や水田、水路に限定して生息している。



冬 春 秋 夏 **クサガメ**
甲長20～30㎝。18世紀末に持ち込まれたと推定されている。香川県では平野部、島嶼部に広く生息する。在来のイシガメと競合し、更に雑種ができることが懸念されている。

冬 春 秋 夏 外 **アカミミガメ**
甲長20～28㎝。ペットとして移入された。香川県では平野部、島嶼部に広く生息する。雑食性で動物質のほか水草も食べて減らし、在来のイシガメと競合するなど、生態系・在来種への影響が問題視されている。

ため池の鳥類

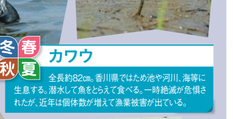
ため池、および堤体やその周辺の草地は、様々な鳥類が利用する環境の一つで、餌場、水飲み場、ねぐら、繁殖地などになっている。貯水時と池干し時では、利用する種類が大きく変化する（表面のため池の鳥類を参照）。

冬 春 秋 夏 **カイツブリ**
全長約26㎝。香川県では、ため池や流れの緩やかな河川の水面に生息し、潜水して魚類、昆虫、甲殻類、貝類などをとらえて食べる。写真のように、水上に水草で巣をつくる。

冬 春 秋 夏 希 **コチドリ**
全長約16㎝。香川県では主に夏に飛来するが、越冬個体も確認されている。ため池や水田、川辺などの水辺でユスリカ類の小型昆虫類やミミズ等を食べる。

冬 春 秋 夏 **キンクロハジロ**
全長約43㎝。香川県では冬季にため池や河川等に飛来する。雑食性で、写真の個体のように貝類を捕食し、その他小魚や水生昆虫等も食べる。

冬 春 秋 夏 **コウノトリ**
全長約112㎝。香川県ではため池や湿地等の水辺で生活し、魚やカエル、ヘビ、昆虫等を食べる。1971年に国内で絶滅したが、その後の野生復帰事業により個体数が増え、2023年からまんのう町でも繁殖するようになった。



冬 春 秋 夏 **カワウ**
全長約82㎝。香川県ではため池や河川、海等に生息する。潜水して魚をとらえて食べる。一時絶滅が危惧されたが、近年は個体数が増えて漁業被害が出ている。

冬 春 秋 夏 **バン**
全長約32㎝。香川県ではため池や河川等に生息し、ため池で繁殖することもある。雑食性で、水際や浮いた水草の上を歩きながら、昆虫や甲殻類、植物の種等を食べる。

ため池の昆虫

水中・水面には、止水性のトンボ類や水生カメムシ、水生甲虫などの水生昆虫が生息する。堤体やその周辺の草地環境にも多様な昆虫が生息し、中には希少な種が含まれる。

冬 春 秋 夏 希 **フタスジサナエ**
体長43～48㎜。かつて香川県では丘陵地のため池で普通に見られた。現在は、ため池の水質悪化等の影響により、ほとんど見られなくなった。

冬 春 秋 夏 **オオアメンボ**
体長20～25㎜。香川県ではため池や河川上流域のよどみに生息しており、薄暗くなった場所を好む。日本産アメンボ類の最大種で、水面に落下した昆虫等の体液を吸う。

冬 春 秋 夏 **コフキトンボ帯型メス**
体長37～48㎜。全国の水草の多いため池に生息し、香川県でも広範囲にわたって見られる。しかし、帯型のオスは香川県では大変めずらしく、これまで数百ペア東かがわ市のみで見つかるのみである。

冬 春 秋 夏 希 **コオイムシ**
体長17～20㎜。香川県ではため池、休耕田等、水深の浅い水域に生息する。成虫・幼虫ともに好んで巻貝の体液を吸うが、水生昆虫やメダカなどを襲う。

冬 春 秋 夏 **コバネイナゴ**
体長30～40㎜。全国の水田や湿った草原でもっとも普通に見られたイナゴの種類。農業の影響で一時個体数が減ったが、現在は全国的に回復傾向にある。一方、香川県ではまんの町の逆様池周辺でのみ確認されている。

冬 春 秋 夏 希 **コガタノゲンゴロウ**
体長24～29㎜。1960年頃までは香川県の広域に分布していたようだが急速に姿を消し60年近く記録が途絶えていた。ところが、2017年頃から確認されはじめ、近年は回復傾向にある。

冬 春 秋 夏 希 **シルビアシジミ**
開長20～25㎜。幼虫の餌のミヤコグサが生育する河川敷やため池の堤防の草地に生息していた。香川県では1988年の国分寺町のため池における記録を最後に確認されていない。